

地方自治ここにあり 首長インタビュー

一人ひとりに居場所と出番があるまちへ —自分事意識がまちをつくる—



中阪雅則　かつらぎ町長

かつらぎ町長 中阪 雅 則 さん

昨年9月の町長選挙で、現職との一騎打ちを制し、かつらぎ町長に選ばれて一年。中阪雅則町長は、このまちに決定的に欠けていたのは「情報発信力」だと言います。首長インタビュー今回は、ふるさと再生に取り組む中阪町長にお聞きします。インタビューは、当研究所の鈴木裕範常務理事です。

有権者に 新しいリーダー待望論

鈴木：海南市の幹部職員からかつらぎ町長に、現職を破つての転身でした。町長就任は、それだけ中阪町長への大きな期待があつた、表れだと思います。裏返せば、これまでの町政に有権者が満足していなかつたことになります。

町長：一般的に当選の確率は圧倒的に現職有利ななか

で、今回のような結果が出たということは、不平不満というよりは閉塞感があつたのは確かだと思います。選挙で回ったときに、たくさんの方が口にされていましたのは、若い人がどんどん出ていくと、この町にとどまつてもらえない、そういう状況の中で、この町の将来が不安という声はたくさん聞きました。そういう状況下で、新しい流れ、新しいリーダーを求める感はありましたとと思います。

鈴木：さて、町長は公約に人口2万人計画を掲げてらっしゃいますが、今月（8月）、総務省が発表した人

分の住んでる町をよく分かっていない住民も行政マンも多いと思うんです。子どもたちの保護者組織である育成会の会長をさせていたいた時に、町が主催する会議のメンバーに入れていたときも思つたのですが、そんな中で、このままだとちょっと厳しいなあとという思いと、もっと資源を活用すれば、可能性やポテンシャルが高い町だと思ったわけです。財政状況を見れば、かなり逼迫した状況にあり、農業政策に注力して、ほかの産業とのバランスが悪かったり、若者が住みたくなるような政策が少なかつたりといふことで、可能性と課題がはつきりと分かるようになります。決断をしたというか、いわゆる自分事になつてしまつたということです。

私はこの町に住みながらほかの町で働いていたので、外から見るかつらぎ町という視点を持てたことが、立候補の一つのきっかけになりました。

町の組織改革断行 プロジェクトチーム設置

町長：そうです。案外、自

内と外、両方からの目で、ふるさとを見つめていたと。

鈴木：内と外、両方から

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー
一人ひとりに居場所と出番があるまちへ
—自分事意識がまちをつくる—
かつらぎ町長 中阪 雅則さん 1

持続可能な和歌山の農林漁業をめざして
FFPW代表幹事、FFPJ常務理事
紀ノ川農業協同組合 組合長 宇田 篤弘 6
シリーズ「若者から見た現代社会」⑦
誰がためにマナーはある
和歌山大学 平見 真由 8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2020年10月号

2020年9月25日発行 第322号 (月300円)



かつらぎ町役場

□統計では、人口減少が過去最大になつて、東京一極集中が更に進んでいるということが、明らかになります。した。先に、増田元総務大臣を座長とする日本創生会議がまとめたレポートでは、かつらぎ町の2040年の人口は9695人で、消滅する可能性が和歌山県の自治体の中で10番目だという大変厳しいデータが出ていました。その中で、2万人おられますか。

つて掲げているわけではありません。日本全国の人口が減少しているということは、否めない事実でございます。そこに加えて東京一極集中というのも当然、結果として出ています。

ただ、明るい話で言うと和歌山県は割と30代女性が増加しているんですね。2020年の時点では既に予想よりも約1万人近く多い状況でクリアしましたので、手立てを講じていけば変わっていくと考えています。

よりも約1万人近く多い状況でクリアしましたので、手立てを講じていけば変わっていくと考えています。

良さ（大阪の外環状線まで僅か15分）を活用して、こつちに住んでもらって、働くのは大阪でということを考えています。住む場所を提供するためには、土地の確保が必要です。土地の地権者やいろんな住民の協力を得ないとできません。私 の人口2万人計画というの は、住民と行政は英知を集め 結して成し得ていくもので あるということを常々、幹部職員にも言つております し、住民にもそのようにお願 いをしております。

結して成し得ていくもので
あるということを常々、幹
部職員にも言つております
し、住民にもそのようにお
願いをしております。

鈴木：プロジェクトチーム
というのは、幹部職員を中
心とした組織なんですか。
町長：そうです。この4月
から人事、組織の仕組みを

変更まして、課長の上に
参事という職を置きました
総務と福祉部門を統括する
参事1名と、産業と経済と

建設関係を統括する参事1名、教育次長、そして全部を統括する総括参事の4人

置いたんです。そこに教育長と僕を入れた6人は、この町の経営者ということです。毎週月曜日に経営者会議を

やっています。今日はたまたまそのプロジェクトの話を中心にしました。

若い世代の仕事と子育て
西部公園は母子の場に

鈴木：働く場ですが、IT

社会を生かした取り組みを
ポイントではないかと思いま
す。地域産業の再生にば

町長・かつらぎ町は、中令

業と位置付けられるようだ
企業がいくつもありまして
お隣の橋本市に比べますと

企業数では3分の1しかございませんが、生産高でい

訪問して、お話を聞くと士

が欲しいという企業が圧倒的

企業は、和歌山県下で一番高卒を多く採用しているヒ

うなんですが、私どもの町の高校からの就職は少ない



母と子が育つ場所へ 西部公園

ようなので、御坊や田辺からこちらへ働きに来ている方がたくさんいるようです。この町の子どもたちがこの町に帰ってきて働く環境をつくりたい。

大卒だとなかなか採つてもらえないということであれば、大卒を採用してくれた企業をどのようにして誘致するかという問題と、元の企業へ就職したいと思うような子どもたちをつくるために、ふるさと教育をきちんとやつていかないといけない。

ITといふことが出てきましたけども、テレワーク起業者をサポートする起業支援（年間3件、500万円×3件）を町単独予算でやっているんです。お店を開業したり、いろんなことやつていただいたりする制度です。そういうたまごづくりを、町中で働く場を確保していく必要がある。

僕は元々、企業誘致を考えていたが、大阪で働いていましたが、どちらに住んでいただくという方が現実的かもしれない、今、分析中です。

鈴木：その上でお尋ねする

んですが、若い夫婦がここで暮らしていくときに、まづ仕事があるということが

とか、リモートとかいろいろ言いますけども、東京に本社があつても、働く場所は和歌山でというようなことが可能になつてくるといふことであれば、田舎で暮らしながら、余暇を楽しむこともできるでしょう。そんな環境を提供することを考え、空き家であつたり、農地もセットにして、企業に売り込みに行かなればいけません。

起業者をサポートする起業支援（年間3件、500万円×3件）を町単独予算でやっているんです。お店を開業したり、いろんなことやつていただいたりする

元の計画では、パークゴルフ場の利用者のための食堂とか休憩所という発想だけが、一定の場所で快適に過ごせることが必要であると考えて、少し計画変更して整備しています。その場所は万葉の里の向かい側です。公園で遊んで帰りは道の駅へ寄つてもらつたり、道の駅の前にある河川敷でキャンプしていたら結構

大事です。住む家がある、そして、子どもを育てるサポートシステムが充実しているかどうかです。

町長：多くの声を聞いたのは、遊具のある公園が欲しいとか、そういったハード面の部分はよく聞きました。今ちょうど西部公園の整備をしているんですけど、そこは遊具というよりは、小川をつくつて自然と触れ合えるような、しかも建物の中では、雨が降つても寒いときでも快適に子育てママたちが集えて、子どもたちが遊べるようなスペースをつくっているんです。

元の計画では、パークゴルフ場の利用者のための食堂とか休憩所という発想だけが、一定の場所で快適に過ごせることが必要であると考えて、少し計画変更して整備しています。その場所は万葉の里の向かい側です。公園で遊んで帰りは道の駅へ寄つてもらつたり、道の駅の前にある河川敷でキャンプしていたら結構

ですし、半日ないし一日過ごせるような場所を提供することによって、ニーズを満たしたいと思っています。ソーシャル面で言うと、今までインフルエンザの予防接種は、高齢者が1000円負担でできて、中学生まで子どもだと1000円引きだつたんですが、そんな差を付ける理由もないのに、子どもも1000円でできるようにしたし、就学前の中でも園の子どもさんたちは、完全に給食費無償化になりました。そういうことも含めて、子育て世帯にとって、安心して育てられる環境づくりを進めていきたいたい。それをしっかりと発信していく。この町で最大に足りていなかつたと思うのは、発信力ですね。いろんな機会をとらえて、町がやっていくなかつたと思うのは、地域活性化ですね。観光まちづくりについては、どういう政策をお考えですか。

鈴木：かつらぎ町は自然、歴史、産物と地域資源が多くあります。観光まちづくりについて、どういう政策をお考えですか。

町長：観光に関しては、今、高野山が年間160万人近くで、かつらぎ町は134万人ぐらいの入り込み客数があるんです。決して観光面で劣つてはいるわけではありません。ただもつともつと発展させるためには、今もやつてているブドウ狩りなど、多くの体験型の観光、着地型観

あとは、かつらぎ町にある企業の情報を住民の目線に合わせて求人情報とともに提供していかないといけないし、もう少し企業と行政と住民が近くなるような関



ブドウの里 御所地区

町を代表する観光地
天野 丹生都比売神社

光というのを少しやつてい
ますが、もう少しその辺を
やっていきたい。例えば、
今、耕作放棄地なんかも若
干増えてきているんですが、
そこに、ふるさと納税でミ
カンの木や柿の木のオーナ
ーとなつてもらうことによ
つて外からいらっしゃる方、
つまり関係人口として増や
していく。関係人口という
のは観光客以上であつて住
民未満。定期的に来てくれ
て、来るときにはいろいろな
消費していただくなチャンス
も出でますので、そういう

う人を増やしていきたいと
いうことで、ふるさと住民
票という制度を今年4月か
らスタートしたんです。ふ
るさと住民票を用意して、
ふるさと住民票を受け取つ
ていただいた方には、定期
的にイベントの案内をした
り、観光案内したりとい
ることで、進めていこうとし
ています。スタートはかつ
らぎ町のファンになつても
らうことです。

鈴木：フルーツフルーツ
リズムはどうお考えでしょ
う。

町長：今、かつらぎ町と橋

本市が中心になつて、高野
山麓ツーリズムビューロー
というのをやつていまして、
橋本の方は高野山麓の精進
野菜ということをやり始め
ました。我々はフルーツと

いうことで、この2つのキ
ーワードをもつて売り込ん
です。柿と桃とミカンの3
つは、和歌山県を代表する
フルーツですから、もう少
し連携も必要かなと思って
います。JA紀の里とかと
連携できるような仕組みに

なりつつあるみたいですか
ら、今後は広域的にやつて
いく必要があるんじゃない
のかなとは思っています。
ふるさと住民票を用意して、
ふるさと住民票を受け取つ
ていただいた方には、定期
的にイベントの案内をした
り、観光案内したりとい
ることで、進めていこうとし
ています。スタートはかつ
らぎ町のファンになつても
らうことです。

鈴木：ところで、町長はか
つらぎ町の防災対策の遅れ
をあげ、早急に解決しなく
てはいけない問題だと言つ
ていますね。

町長：はい。防災対策は、
全地域、全世帯に対しても情
報提供できる仕組みを今、
構築しようとしています。
今年度中に多分、整備でき
ると思うんですが、全世帯
に防災ラジオみたいな端末
受信機を無償でお貸しして、
昔あつたポケベルの周波数
を使つて放送するんです。

あれは270キロヘルツの
パワーがあるので、割と遠
く、特に山間部に強いんで
す。

鈴木：そうなのですか。
町長：それを県下で多分初
めて採用するんじゃないで
すかね。従来の無線のアン
テナは、山間のところにい
て、どのよ

かすには、数を建てなければ
いけなかつたんですけど、
今回は、紀の川市の飯盛山
の上と、花園の久木という
高野山の近くの2か所に建
てるだけで、かつらぎ町全
域をカバーできるので、そ
れを使って進めています。
これは、文字放送ですから
肉声ではないので、緊迫感
がないと言う方もおられる
のですが、聞き直しもでき
るし、聴覚障害の方には文
字で放送ができる機種もあ
りますので、すべての住民
の方に瞬時に適切にお伝え
できる仕組みができます。
行政無線の事業費は約6
億2千万円だつたと思いま
す。

鈴木：世帯数は何世帯ですか。
町長：確かに、7200余り。
この辺は津波がくる場所で
はないので、緊急的に防災
無線を使うということは余
りないのでですが、ほとんど
の場合は、大雨洪水、崖崩
れなどの災害になります。
大雨のときに外のスピーカー
一ではなかなか聞こえないと
思つていて、家の中で聞こえるこ

とを前提に、だけど外でい
るときも聞こえないと困る
というケースもあります。
で、ある一定のエリアには
外のスピーカーも整備をし
ようとしています。

安全安心なまちへ 県内初の防災無線を整備

一人一人が主役のまちへ 自分事会議をスタート

鈴木：安全安心なまちづくり
のためには、住民の意識の改
革、行政と住民の信頼関係が
大事になつてきます。
と考えていくには、住民の
づくりを意味するのでしょうか。
自分事といいました。オーバー
ルかつらぎによる協創の場
で、行政がやる事業に対し
て、どのような興味関心を持
つていていただくか、またそ
の事業に対してもどのような
判定というか、評価をする
かということになつてくる
と思うんです。今思つていい
ことは、自分事会議という
ことで、高校生から70歳、

(5) わかやま住民と自治

2020年9月25日発行 第322号



ふるさとを発信
かつらぎ町のインタビューボード

80歳ぐらいまでの世代を無作為抽出して、この方々に事業仕分の判定人になつていただいて、役場は担当課長なりが説明をし、判定人の前で質問したりとかするコーディネーターや仕分け人を置いて、その議論を聞いていただき、この事業は要るのか要らないのか、拡充した方がいいのか、見直した方がいいのか、いろいろ出てくると思うんですけど、そういうことを理解して、少しずつ住民に行政のしていることを理解してもらひ、自分だつたらどうするとか、自分事に考えてただくような機会を増やしていくこと、今、思つてい

ます。
各地域の自治会長さんとかが、それぞれの地区の要望書を持ってくるんですよ。その要望書を見ていると、なかなか優先順位を高くできない要望があるわけですよ。どれぐらいの要望が来ているのか、どんな内容なのか全部ランク分けして、今ちょうど説明に回り始めたところです。そうすると、こういう大変な地域もあるから、もっとと考えて厳選していくことがあります。

鈴木：行政が、住民の声、住民の期待にきつちりと答えていくことで、信頼関係は成り立つ話だと思うんですが、これまで住民懇談会のようなものはあつたんですか。

町長：過去に何回かやりかけたけどやめてしまつたとあります。
鈴木：住民懇談会みたいなものができれば、住民と行政が共に考えていくまちづくりができるのではないかという期待も抱くんでけども、しかしですね、今ごろ何をしに来たんだと言わる感じもしないではあります。どうですかね。

くりができるのではないかという期待も抱くんでけども、しかしですね、今ごろ何をしに来たんだと言わる感じもしないではあります。どうですかね。

町長：いや、そんな感じではないと思います。実は計画して日程まで調整したのに、結局、コロナで中止はしましたけど、僕は大事なのは、聞かれてすぐ答えられるものでないと駄目だと思つてます。住民に聞かれて、こういう困り事があると、どう解決したらいいのかとか、どうにかできへんのかと言われたときには、それについては、こういう解決の方法があるので、一度、担当者と打合せをさせてくださいということを直接、住民と幹部職員がやりとりしないと、担当者がいくらやっていても、それが上に伝わっているか住民は不安なんです。だから本来、一番責任ある立場の人たち、私も含めてかつらぎ町の参事会といふ会のメンバーが責任持ってお答えしますよと、お答えしたこと

に關しては責任持つてやらせます、やりますみたいない信頼関係をつくつていかなきゃいけないと思っていました。今更というよりは、やつしてくれたかと思つて思つています。

鈴木：そこから住民と行政の対話が深まつていく。

町長：はい。

鈴木：かつらぎ町は変わりそうだなというふうに思ひながら聞かせていただいています。

町長：当然ながら住民にとって良くなつたよねつて思つてもらえるような、体感できるようなところが必要ですね。

それ以外にも役場の職員さん、愛想が良くなつたねとか、対応良くなつたよねみたいなことも含めて、僕は人づくりだと思っているんです。いい人が育つてこりません。だから文句言うだけの話ではなくて、文句も言うけど力も貸すよといふ人たちを育てていきたい。最終的には、居場所と出番がある町、そういうまちづくりをしたいと思っています。そのためには人が人を育てていくと考えたときに、まずは役場職員が育たないといふ考え方をもつて、この全体が元気になつていくと駄目ですので、役場職員が育つたことを前提に町のまちをめざしたいなど思つてます。今更というよりは、やつてくれたかと思つて思つています。

鈴木：努力し、挑戦すればみんなに出番がある。そういうまちをめざしたいといふことです。

町長：出番がある。

鈴木：努力し、挑戦すればみんなに出番がある。そういうまちをめざしたいといふことです。

町長：出番がある。

鈴木：最後に、中阪町長が大事にしている言葉を聞かせてください。

町長：強いて言うと、勇往邁進と言つんですかね、そ

ういう茨の道をどんどん、臆せず進んでいく、生き方をしたいなと思っています。

鈴木：スポーツマンの町長らしい、言葉と伺いました。今日は、どうもありがとうございました。

持続可能な和歌山の農林漁業をめざして



宇田篤弘氏

FFPW 代表幹事、FFPJ 常務理事
紀ノ川農業協同組合 組合長 宇田 篤 弘

農業を取り巻く環境が厳しくなってきているということで、「国連家族農業10年」を推進する「家族農林漁業プラットフォーム和歌山」を設立された紀ノ川農業協同組合の宇田篤弘氏に「持続可能な和歌山の農林漁業をめざした」取り組みについて寄稿していただきました。

日本の食料自給率は37%、和歌山県はさらに低い28%しかありません。新型コロナウイルスの感染拡大で、3月から6月までにシリア、ベトナム、タイなど、自国の食料確保のため約20ヶ国が基礎食料の輸出制限に踏み切りました。世界の人口は増え続ける一方で、自然災害による農作物の被害が頻発し、「食料危機」が現実的になつてきました。

和歌山県の基幹的農業従事者は、2015年で32,500人、10年間で約6,

000人が減少し、30才未満の若者は、約400人です。高齢化と担い手不足、耕作放棄地、鳥獣害など深刻な課題に直面しています。

政府は、私たちの命や暮らしを守る法律を毀してきました。農山漁村の「協同の暮らしの場」を毀し、利益追求の投資対象とする「農山漁村の作業場」化が進められています。

国連は、2019年から2028年までの10年間を「国連家族農業10年」にしました。気候変動や災害、環境悪化のなかで増え続ける人口を養っていく方向は、家族農業であるとした。家族農場は、世界の農場の約9割、日本では98%の134万戸が家族農業です。そして小農は、農業資源の25%を利用して世界

【攻めの農林水産業～成長戦略の下で大企業に農林水産業資源を売り渡す法改正】

法律	趣旨
農業協同組合法等の一部を改正する等の法律	2016年4月施行 農業協同組合・農業委員会・農業生産法人について見直し
主要農作物種子法の廃止	2018年4月施行 農業の戦略物資である種子については、多様なニーズに対応するため、民間ノウハウも活用して、品種開発を強力に進める必要・・・民間企業との連携により種子を開発・供給することが必要
漁業法等の一部を改正する法律	2018年12月公布 資源管理措置並びに漁業許可及び免許制度等の漁業生産に関する基本的制度を一体的に見直し
森林経営管理法	2019年4月施行 市町村が仲介役となり森林所有者と意欲と能力のある林業経営者をつなぐシステムを構築
種苗法の一部を改正する法律案	2020年5月継続審議 より実効的に新品種を保護する法改正が必要・・・自家増殖は、育成者権者の許諾に基づき行うこととする
森林組合法の一部を改正する法律	2021年4月施行 組合間の合併以外の多様な連携手法の導入、正組合員資格の拡大、事業の執行体制の強化等の措置を講ずる



古座川流域連携プラットフォーム 設立記念講演
和歌山大学観光学部 大浦由美教授

の食料の70%を生産するのに対しても、工業的大規模農業は、資源の75%を浪費しながら30%の食料しか提供できません。

2019年6月に「国連

家族農業10年」を推進する「家族農林漁業プラット

J」が設立され、和歌山県でも「家族農林漁業プラ

ツトフォーム和歌山（FFP
W）を同年10月に立ち

上げました。

FFP Wは、家族農林漁

業が持つ高い持続可能性を広め、和歌山を

フォームジャパン（FFP
W）が設立され、和歌山

県でも「家族農林漁業
組合」を設立しました。森

古座川流域づくりをめざし

ます。

当面は、流域の農林漁業や観光業など、持続できる地域めざす課題の共有化を進めます。設立総会では、和歌山大学観光学部大浦由美教授に森林についての記念講演をしていただきまし

た。

林漁業を「家族農業を最も大切にする地域」に

するため、「家族農業10年」に関するシンポジウムや講演会、学習会の開催、「家族農業・農林漁業・農山漁村関連会の開催、
「食料・農林漁業・農山漁村関連政策」に関する政策提言や行政との対話を中心に活動しています。

和歌山県の農林漁業が持つ環境保全などの多面的な機能の貨幣的価値は、農林漁業従事者1人、1年間におよそ3,700万円の価値を生み出しています。この多面的機能を社会的に評価し、県内木材をフルに活用し、豊かな森林を取り戻し、中山間地域の棚田を復活させ食料自給率を高めると同時に災害に強い流域をつくることは、多面的な機能を発揮させ豊かな川と海を取り戻し、持続可能な地域を形成していくと考えま

【農林漁業の多面的機能の貨幣的価値】

	全国		和歌山県				
	貨幣的価値	面積・船数	面積・船数	全国比	貨幣的価値	基幹的従事者	1人当たり
農業	8兆2,2266億円	4,420,000ha	33,300ha	0.75%	617億円	32,500	1,898,000
林業	70兆2,638億円	25,081,390ha	361,288ha	1.44%	1兆118億円	1,145	883,670,000
漁業	13兆7,777億円	246,903隻	4,648隻	1.88%	2,590億円	2,907	89,102,000
合計	92兆2,641億円				1兆3,325億円	36,552	37,246,000

注) 漁業・三菱総合研究所試算(2004年) 林業・林野庁(2001年) 農業・三菱総合研究所試算(2001年)、和歌山県の数値は2015年農林業センサス等から作成

シリーズ「若者から見た現代社会」⑦

誰がためにマナーはある

和歌山大学 平見眞由



平見眞由氏

シリーズ「若者から見た現代社会」は7回目となりました。

今回も平見眞由氏（仮名）の投稿です。

今回は、#KUTTO運動が参議院予算委員会で取り上げられるほど、女性のパンプス着用が女性に苦痛を強いていることに注目し、問題提起して頂きました。

この原稿を書いている今、世間は「安倍首相、辞任を表明」というビックニュースで持ち切りだ。療養中とのことで、まずは安倍晋三という一個人の「余人をもつて代えがたい」命をしつかり大切になさってくださいと言いたい。もちろん彼の行つた数々の政策についても、今後も批判させていただくつもりではあるが、それはさておき、最近非常に腹立たしい出来事があって、私は首相の話よりもそっちの話がしたかったのだ。

つい先日、学部二回生対象の実習に向けて、必修となっているマナー講座を受けた。正直私は大学主催のマナー講座があまり好きではなく（誤解のないように言うのだが、対人関係において相手に敬意を示すという意味でのマナーの在り方には、大いに賛成はしている）、毎回この手の講座には気乗りがしない。が、今年に限って一つ期待していることがあつたため、今回だけは少し楽しみにしていただった。それは「女性のパンプス着用」についてである。

ところで、今年3月3日の参院予算委員会における、共産党・小池晃書記局長と安倍首相との質疑・答弁はご存じだろうか。#KUTTO運動（女性のパンプス着用強制は性差別であ

るとして、撤廃を求める運動）の広がりを受け、小池氏は「女性だけに苦痛を強くという政治の決意を語つてほしい」と首相に求めた。すると安倍首相「パンプスの着用を強制するよう苦痛を強いるような、合理性を欠いたルールを女性に強いるのは許されないのは当然のこと」。犬猿の仲と言われている小池氏と首相の、異例の見解一致に私も少し驚くとともに、小池氏同様「大変勇気づけられる答弁だ」と思った。

ということで、昨年度のマナー講座の際、実習担当の先生に「パンプス着用は絶対なんですか」と突っかかった挙句「講師の先生が言うんだから（絶対でしょう）と返され、泣く泣くパンプスを購入した私としては、「今年こそパンプス着用は自由」という方へ向かうのでは？」と密かに期待していた。そして、結果的にその期待は裏切られた。渡された資料にあった服装規定の記述には、「女

性はパンプス」と明記されているどころか、他の項目も去年と全く変わらぬ文言ばかり。しかも講座中、パンプス論争に一切言及無しときた。すっかり絶望である。

そもそも私は、足の形が問題なのか、自分の足に合ったパンプスというものを見つけにくい。合わないパンプスでよたよた歩くことのどこにマナーがあるのか。その程度のマナーで示せる敬意なんて、ないと同じではないか。

文化やマナーは時代に合わせて変わるものだろう。仮にもマナーの専門家なら、この「男女平等」の時代に即した新たなマナーを自ら示していくことも、重要な要だと私は思う。先生ご自身がペタントコ靴を履き、「皆さん、マナーは相手方への敬意や配慮のためにありますよ。自分の足を痛めつけるためではありません」と返され、泣く泣く